1　はじめに

2　年間指導計画における単元の位置づけ

3　児童の実態

4　単元について

5　本時の授業について

6　単元の評価・次の単元や次年度への展望

7　授業研究を終えて

単元の評価（個人目標）

「思考力・判断力・表現力」を中心とした目標に対して，以下の観点で評価を行った。

ア「知識・技能」	自分の知識や技能を活用したと見られる場面
イ「思考力・判断力・表現力」	目標に沿って評価を行った。
ウ「主体的に取り組む態度」	授業を通して意欲的に取り組んだと思われる場面

単元の評価（個人目標）

児童a

①「ブレーメンのＢ組音楽隊」の劇をする中で，ライオンの役になりきり，悲しい気持ちや嬉しい気持ち等を，動作をつけながら台詞を言うことで表すことができる。 （国語科　小学部２段階）	ア	自分の台詞を言うことができるようになった。
	イ	実際に台詞で表す際には，読むことで精一杯になり，気持ちを込めることは難しかったが，登場する動物の台詞を考える際には，2つのイラストを手掛かりに「困っている」と自分なりに気持ちを考えて言うことができた。
	ウ	練習を重ねる中で，自分なりに言いやすい台詞に変え，工夫して表現する姿が見られた。
	今後に向けて	
	これまでは平仮名を読むことには苦手意識が見られたが，単元を通して少しずつ自信がついてきて，他の場面でも自分から進んで本を読む姿が見られるようになった。今後は，読み取って表現する力をさらに伸ばしたい。	

単元の評価（個人目標）

児童a

②「ブレーメンのB組音楽隊」を発表するにあたって，友達と協力して役割を果たすことができる。（生活科　小学部2段階）	ア	（単元期間中に足を怪我していたため，活動への制約がある中で，直接協力して役割を果たす場面は難しかったが）自分の役割を理解して，取り組むことができた。
	イ	お面を渡す役割の時には友達の名前を言いながら渡したり，掛け声をかける際には友達の様子を見渡してから「せーの」と言ったりして，友達を意識して役割を果たすことができた。
	ウ	劇の会場に向かう前に，自分からお面が入っているかごを取りに行く様子が見られた。
	今後に向けて	
	友達と協力して役割を果たす場面を設定する。	

単元の評価（個人目標）

児童d

①「ブレーメンのＢ組音楽隊」の劇をする中で，ゾウの役になりきり，他の役の友達に向けて，台詞に合わせた動作をすることができる。（国語科　小学部１段階）	ア	台詞のタブレット端末のキーを押して，台詞に合わせた動作をすることができた。
	イ	ゾウの役の台詞の意味を理解して，自分から友達の方を向いて「いってみよう」と手を挙げる動作をすることができた。また，自分の出番の前に，友達の働きかけに対して返事をして，台詞のタブレット端末のキーを押す姿が見られた。
	ウ	発表会当日の最後の配役紹介の時に，自分から「パオーン」と鳴き声を言う姿が見られた。
	今後に向けて	
	いろいろな表現方法を知り，自分から表現しようとする態度を育てたい。	

単元の評価（個人目標）

児童d

②「ブレーメンのＢ組音楽隊」の劇をする中で，友達と協力して役割を果たすことができる。（生活科　小学部２段階）	ア	劇の準備や後片付けの際に，友達と一緒に小道具を運ぶ役割を理解して，取り組むことができた。
	イ	友達の様子を見て，友達の動きのペースを合わせながら運ぼうとする姿が見られた。
	ウ	繰り返し取り組む中で自分の役割を覚え，自分から進んで取り組む姿が見られるようになった。
	今後に向けて	
	今後も友達と協力して役割を果たす場面を設定する。	

単元の評価（個人目標）

児童f

①劇をする中で，他の役の友達の働きかけに視線を向けたり，教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりすることができる。（国語科　小学部１段階）	ア	劇の中で友達に視線を向けたり，教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりする必然性が感じづらいものであり，意味理解が難しかった。（目標設定の工夫が必要だった。）
	イ	評価することが難しかった。
	ウ	（台詞の場面ではないが）動物のお面をつけて，劇をする会場に笑顔で向かう姿が見られた。
	今後に向けて	
	国語科の目標設定としては課題が残るが，単元期間中に「ブレーメン」と自分からつぶやく場面が見られた。国語科の内容においても，興味・関心の幅が広がるように，これからも様々な学習を設定する。	

単元の評価（個人目標）

6　単元の評価・次の単元や次年度への展望

単元の評価（個人目標）

児童f

①劇をする中で，他の役の友達の働きかけに視線を向けたり，教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりすることができる。（国語科　小学部１段階）	ア　劇の中で友達に視線を向けたり，教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりする必然性が感じづらいものであり，意味理解が難しかった。（目標設定の工夫が必要だった。）
	イ　評価することが難しかった。
	ウ　（台詞の場面ではないが）動物のお面をつけて，劇をする会場に笑顔で向かう姿が見られた。
	今後に向けて
	国語科の目標設定としては課題が残るが，単元期間中に「ブレーメン」と自分からつぶやく場面が見られた。国語科の内容においても，興味・関心の幅が広がるように，これからも様々な学習を設定する。

国語科の目標設定の見直し

指導の工夫

自立活動のねらいを視野に入れる。

単元の評価（個人目標）

達成できなかった
目標

生活科や国語科の
指導内容の改善

後期の単元計画

次年度の
年間指導計画

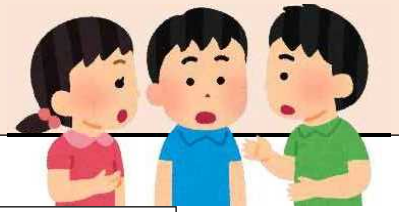
単元終了後の授業の評価

児童の意欲

・校内で発表の場の設定
・ＩＣＴ機器の活用　など

単元終了後の授業の評価

「思考力・判断力・表現力」へのアプローチ



・自分で動きを考える時間
・友達と意見を伝え合う場の設定　など

単元終了後の授業の評価

・「劇をしよう」の学習が，生活単元学習の「子どもたちにとってその期間の生活のテーマとなるような学習」になっていた。
・本単元では国語科と生活科の指導が相乗効果をもたらしていた。

単元終了後の授業の評価

・障害の程度や実態に幅がある学級集団の中で，生活単元学習の単元を組み立てることの難しさを改めて感じた。

単元終了後の授業の評価

・自立活動の内容を組み込んで単元を設定する必要があるのではないか。

その後

１１月の単元「きっさにいこう」
・生活科「金銭の扱い」
・自立活動「コミュニケーション」を中心とした課題設定

単元終了後の授業の評価

・本単元で習得した「聞くこと・話すこと」「読むこと」の力を今後どのように日常生活に広げ，伸ばすか。

その後

・日直の役割として，授業の号令をする際に「れい」と言うことができるようになってきた。
・自分の意見を伝えることが増えてきた。　等

1　はじめに

2　年間指導計画における単元の位置づけ

3　児童の実態

4　単元について

5　本時の授業について

6　単元の評価・次の単元や次年度への展望

7　授業研究を終えて

7　授業研究を終えて

「学習内容表」の活用
一人一人の実態把握を細やかに行う

学びの履歴
身につけたい力

明らかに
なったこと

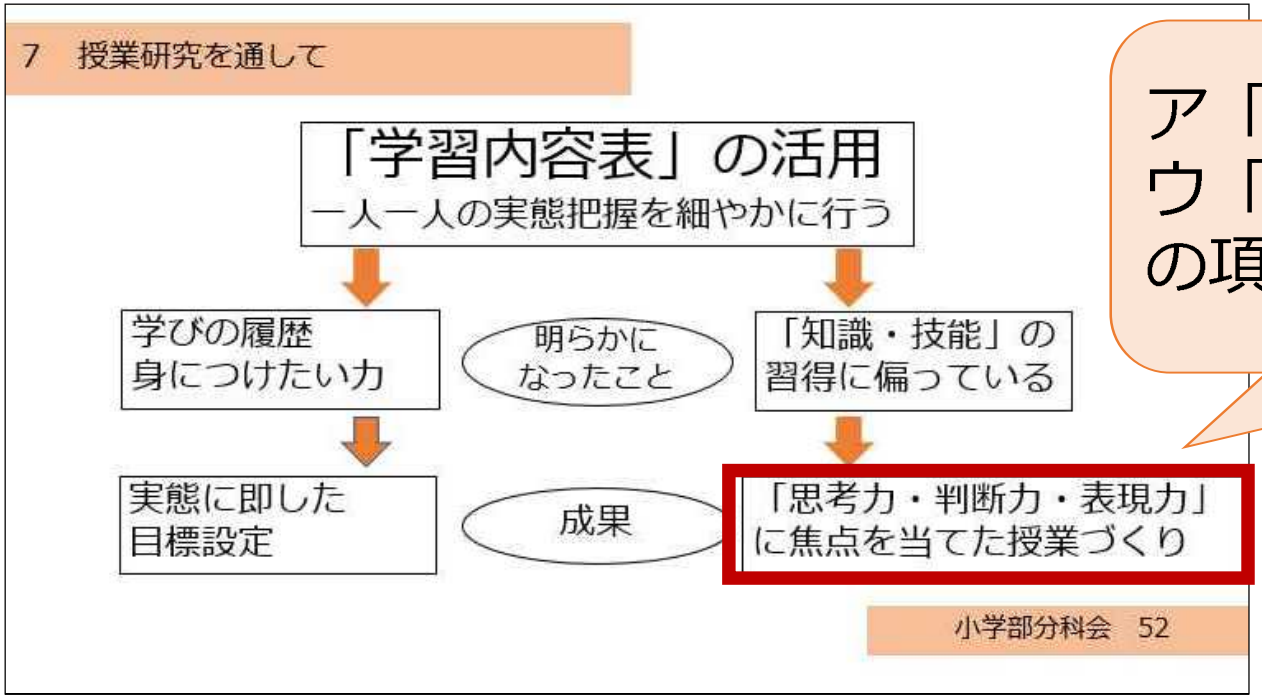
「知識・技能」の
習得に偏っている

実態に即した
目標設定

成果

「思考力・判断力・表現力」
に焦点を当てた授業づくり

7　授業研究を終えて



ア「知識・技能」
ウ「主体的に取り組む態度」
の項目で評価が行いにくい。

7　授業研究を通して

「思考力・判断力・表現力」を中心とした
目標に対して，以下の観点で評価を行った。

ア「知識・技能」	自分の知識や技能を活用したと見られる場面
イ「思考力・判断力・表現力」	目標に沿って評価を行った。
ウ「主体的に取り組む態度」	授業を通して意欲的に取り組んだと思われる場面

目標設定に対して

３観点を踏まえた目標を
立てるべき？

身につけたい力を明確に，
焦点を当てて目標を立てるべき？

目標を立てる段階から，ア，イ，ウ
ごとに項目を立てるべき？